

6 郡市活動報告

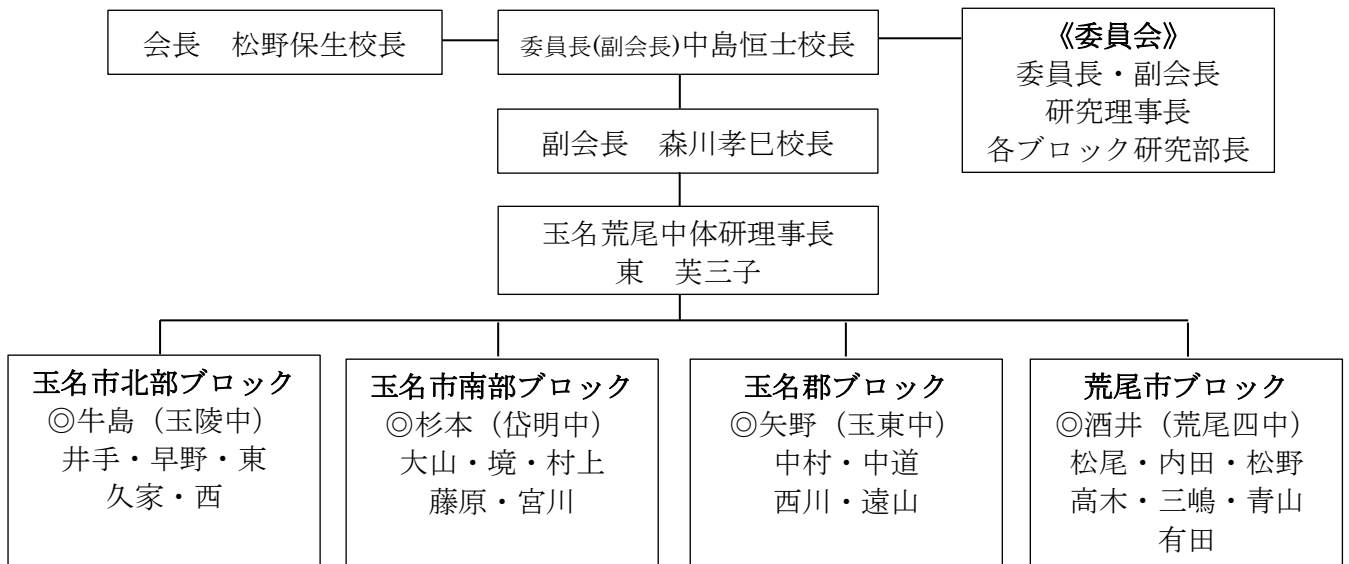
玉名荒尾中体研

理事長 東 芙三子

1 はじめに

玉名荒尾中体研は、松野保生会長（玉南中学校）、中島恒士委員長（菊水中学校）を中心に玉名郡市13校、荒尾3校の体育担当で構成されている。今年度は特に「対話的な活動」に着目し研究を進めた。運動量の確保の面で敬遠されがちな対話的活動を、どのように工夫し取り入れると、体力が向上し生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現につながるのかを研究した。今年度は、研修・協議・授業研究、各学校の実践共有など行うことができたので、来年度以降のさらなる実践・研究へとつなげていきたい。

2 研究組織



3 活動状況

会議等	期日	内容
1 教育会教科等全体会	4月20日(水)	年間活動提案・協議、研究テーマについて
2 第1回教科等研修会(実技研)	8月18日(木)	実技研修「創作ダンス」
3 玉名荒尾支部第1回授業研究会	10月25日(火)	会場：玉東中学校
4 第49回熊本県中学校保健体育研究発表大会	11月18日(金)	会場：御船町スポーツセンター及び御船中学校
5 第2回評議員会	2月15日(水)	年間活動報告・反省 来年度への志向

研究テーマ

積極的に運動に親しみ、活力のある児童生徒を育成する保健体育学習のあり方
～主体的・対話的な取組を引き出す、授業づくりを通して～

内容1
全生徒の実態
調査

内容2
授業研究会の
実施

内容3
小・中連携
取組の継続

内容4
実技研修会の
実施

内容5
教材・教具等
の開発

5 研究の概要

(1) 全生徒の実態調査について

玉名管内の「体力」の状況としては、過去3年間の状況と比べても横ばいである。項目別に見ると、「シャトルラン」「ボール投げ」「上体起こし」が若干低下傾向にある。しかし、全体の約82%の生徒は保健体育の授業も運動をすることも「好き・まあまあ好き」と答えており、低下傾向の原因は、新しい生活様式による運動機会の減少や運動部活動加入率の低下によるものと考えられる。

対話的活動を通して技能向上や思考の深まりへの成果を感じている生徒が約91%であるが、約79%は「自分の意見をうまく伝えられていない。」「見た感想やアドバイスをうまく表現できない。」と答えており、表現の仕方や対話のポイントをこちらが提示すれば活動もより活発になるのではないかと感じた。

(2) 対話的な活動を重視した授業研究について

玉東中学校の矢野遥輝教諭による器械運動「マット運動」の授業では、ICTと対話的活動を融合させ技の出来映えを高めていくという内容であった。協議ではどちらも頼り過ぎると運動量の低下を招くという意見が多く出た。協議のまとめでは、中島恒士委員長から対話的活動のとらえ方や、ICTの活用方法についてアドバイスをいただいた。



ICTを活用した導入



対話的活動の実践



授業後の協議の様子

6 まとめ（成果と課題）

今年度は予定していた活動が全て実施でき、各学校の取組や体育担当者同士の意見を交換でき大変有意義な活動であった。しかし、研究テーマが大きすぎたために研究の方向性が不透明になってしまった。次年度は研究テーマを絞り込み、成果につながるような研究にしていきたい。